

2019 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	イラン・イスラーム共和国における第1世代女性の 子育て観 ー女性達の言葉と環境に着目してー
キーワード	①子ども学、②イラン・イスラーム共和国、③子育て観

研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏名	コヤマ タカヒロ 小山 貴博	所属等	函館大谷短期大学 こども学科 講師
プロフィール	2007年3月 明治学院大学 社会学部 社会福祉学科卒業。2007年4月 早稲田大学大学院 教育学研究科 学校教育専攻入学。2010年3月 同大学院修了。2010年4月 早稲田大学大学院 教育基礎学専攻（博士後期課程）進学。2019年同大学院単位取得退学。専攻は教育社会学。 2017年4月 函館大谷短期大学 こども学科 助教。2020年4月 函館大谷短期大学 こども学科講師。中学2年生の時に、ニュージーランドに短期留学。イランご出身の家庭でのホームステイを経験。その時から日本とイランの架け橋になることを志す。同時に、子育てを専門としていることから、北海道 道南地区において、「弱い立場におかれやすい子ども達に想いをかけることができる」保育者の養成をモットーにしている。		

1. 研究の概要

本研究の目的は、イラン・イスラーム共和国 (Jomfri-ye Islami ye Iran) (以下、イランとする) における第1世代の女性を対象として、彼女達の子育て観について明らかにすることである。下記、調査にもとづく分析の結果、イラン第1世代女性の子育て観は、「理念重視型」として集約されることが結論付けられる。1979年のイスラーム共和国への移行後、イラン政府は、イスラームの公正と正義という観点から、女性の社会進出を促した。

他方、社会進出を促されている女性は、子育てをどのように捉えているのか、というのが本研究の出発点である。子育ては、個人の家族の日常的な社会化実践の過程であり、政治、社会、文化の形成に深く関わる社会的な試みでもある。ゆえに、子育ては、そのあり方や、妥当な政治的、社会的支援について十分対策が講じられる必要がある。

2. 研究の動機、目的

本研究に着手した動機として、イランは日本と同じように元来子どもを「善なる存在」として捉えていることによる。

イランをはじめとしたイスラーム社会では、信仰が文化として根付いている。そして、聖典であるコーランでは、95章 第4節において、人間を「最も美しい姿に創った」と記されている。これにより、イスラーム社会は、信仰を通して、人間を善なる存在として捉える文化的な背景が歴史的に展開されてきた。

他方、日本は、子どもは神から授かったもの、子どもは神の子であるから、大切に育てなければならないという考え方があった。

しかしながら、日本の子育て研究は、これまで子育てのモデルを求める際に、「人間は元来罪なる存在」として捉えるキリスト教国から生まれた「子どもを善き存在として捉える」視座

を欧米諸国から求めてきた。

「人間を罪なる存在」文化的背景の中で生まれた「子どもを善き存在として捉える」という子育てモデルと、「子どもを善き存在として捉える」文化的背景の中で生まれた「子どもを善き存在として捉える」子育てモデルは、本来、社会的・文化的な文脈が異なる。

そのため、仮に他国に子育てモデルを求めるにしても、「子どもを善なる存在」として捉える文化的・社会的背景を有する国から援用することが肝要であろう。本研究は、その第一歩としてイラン第1世代女性の子育て観およびその実態を明らかにすることから始める。

3. 研究の結果

表 1. イラン第1世代女性 対象者プロフィール

	年齢	生年月日	子年齢	孫年齢	職業	最終学歴	現住所	調査日
1	78歳	1941年	60歳(男)、 54歳(女) 52歳(男)	35歳(男) 35歳(女) 34歳(男) 33歳(女) 32歳(男) 28歳(女) 25歳(男) 24歳(女)	専業主婦	不明	エスファハーン州	2019年7月31日
2	55歳	1964年	35歳(女) 28歳(女) 25歳(男) 24歳(女)	3歳(女)	専業主婦	教員養成校	エスファハーン州	2019年7月31日
3	66歳	1953年	35歳(女)	4歳(男) 0歳(女)	大学教員	大学院卒	エスファハーン州	2019年8月1日
4	64歳	1955年	36歳(女) 28歳(女)	3歳(女)	専業主婦	大学卒	エスファハーン州	2019年8月2日
5	80歳	1939年	58歳(男) 50歳(男) 40歳(男) 32歳(女)	35歳(女) 34歳(男) 16歳(女) 10歳(女)	専業主婦	小学校	エスファハーン州	2019年8月5日
6	65歳	1954年	41歳(男) 39歳(女) 34歳(女) 28歳(女)	12歳(女) 1歳(女)	専業主婦	職業学校	エスファハーン州	2019年8月5日
7	61歳	1958年	24歳(女) 23歳(男) 12歳(女)	0歳(男)	元小学校校長	教員養成校	アルダビール州	2019年8月7日
8	71歳	1948年	11人と多いため割愛	孫20人、ひ孫3人 と多いため割愛	専業主婦	不明	アルダビール州	2019年8月7日
9	35歳	1984年	21歳(女) 14歳(男)	0歳(男)	牛飼い	中卒	アルダビール州	2019年8月8日

本研究では、第1世代であるイラン女性の有する子育て観について明らかにするために、質的調査を中心に研究がすすめられた。具体的には、子育て観を「こういう子どもに育てたいという願い」と定義付けた上で、インタビュー調査を採用し、類型化を実施し、第1世代であるイラン女性の子育て観のタイプについて検討を行った。

対象の選出方法は、子育てを行った後、彼女達の子どもが結婚経験を有することを第1条件とした。また第2条件としては、孫を有することとした。

今、(孫に囲まれるほど)、家は大きくなりましたけれど、100%、素晴らしいとはいえない・・・(中略)・・・(でも)神のなすことですから、それで、幸せであるかなと思います。(1)

今思うことは、子ども達は皆良い子に育ったということです。20歳の時にはじめて、子どもを得ました。健康であることを一番に考え、とても良い子になったと思います。(2)

子どもを育てるということは、もちろん成功を願い、幸せが実現するように。あなたはいい子よ、あなたはいい子よといったら、本当にいい子になりました。(3)

私の(子どもに対する)夢は、健康であること、健康であれば、「(自分の)考え」もっかかりします。(4)

できたら、しっかりした人間に、善悪の判断ができるように。将来のことを考える。自分で人生を切り開くことができるように。これが一番大切であった。(5)

娘が結婚したら、子どもを産んで欲しい。(娘の)子どもは、常に努力を続けて成功して欲しい。これがとても大切。仕事も自分で決めて、運動もしっかりして、本をしっかり読んで欲しい。(6)

子どもに対しては、幸せになって、人としてまともになって欲しかったし、自分の国のことを知って誇りを持って欲しかった。いつも健康に気をつけて、良い友達を得て欲しかった。(7)

自分で成功して、自分で人生を決定して、幸せになって。孫にも同じように思う・・・(中略)・・・でもまずは健康であること、外国を好きになって欲しかったし、それが彼女の夢ならば。(8)

孫が15日前に生まれたばかりなのよ。娘はエンジニアで、大学院まで行って。(もともと)大学には行って欲しかった。子どもができたとき、まるで私のようにであった。自分で大きくなるように。(9)

ひとつ夢があった。成功して、一緒に頑張るって欲しかった。私は、子どもが学校に行ったらしっかり勉強して、その後、結婚をして欲しい(と願った)。(10)

まずは成功してほしい。自分で、職業を決めてくれればなんでも良い。孫にも同じである。とても可愛い。私は、14歳で子どもを産んだ。(11)

本研究では、表1の通りイラン第1世代の女性を対象として、彼女たちの子育て観の実態について明らかにすることを目的としていた。インタビューの結果、子どもの「成功」や「健康」でいること、そして「幸せ」な人生を歩んで欲しいと願う「理念重視型」として集約された。一方で、「成功」、「健康」「幸せ」の具体的な中身については、自分の子どもが、自ら考え、行動に移すことを望んできたことが指摘できる。

4. 研究者としてのこれからの展望

今回は、第1世代のイラン女性における子育て観を対象とした。本研究をもとに、今後は第2世代、第3世代のイラン女性の子育て観を対象、明らかとしたい。そして、総括するかたちとして、博士論文をまとめあげる予定である。

5. 社会に対するメッセージ

「イラン」と聞いて、どのようなイメージを抱いていらっしゃいますか？マスメディアを通じて、ネガティブなイメージが浸透しているのかもしれませんが、国内は極めて平穏で、かつ親日国であることは余り知られていません。今はドラマ「北の国から」が大ブーム！まさかイランで、ペルシア語の吹替版を観るとは想像もしませんでした。今後は、地道な実践を通して、1人でも多くの方にイランの「本当の姿」をお伝えできるように、学術研究の世界のみならず、様々な場面にて、発信する力を付けていく所存です。



調査に快くご支援頂いた、国立モハッゲグ・アルダビール大学の研究者の方々とそのご家族とともに。